



「みんなにできるSDGs（持続可能な開発目標）って何かな？」。安城市大東町の安城北部こども園で一月下旬、年長組担任の神宮彩乃先生が子どもたちに問い掛けた。「水道の水を出しっ放しにしない」「給食をもりもり食べる」「お友達と仲良くするの、SDGsだよー」。元気な声が返ってきた。

園での取り組みは昨年四月から。「SDGsって、大人でも難しい」と感じていた佐藤貴子園長が職員に、勉強会を呼び掛けた。

「エアコンや扇風機を小まめに消す」「紙の切れ端も有効活用する」「（外国籍の子どもたちの）母国の言葉や文化を知る」。出てきた意見を、佐藤園長は「園内で当

パートナーシップで目標を達成しよう

こども園でゲーム 安城



たり前にやっつけてきていることだね、と再確認した。子どもたちも一緒に実践していけるのではないかと考えた。

川奈保子主任が大鹿教授に協

力を依頼。十、十二月に大鹿教授と同大の学生グループとともに園でお楽しみ会を開いた。

チェックポイントを回って

未来のため楽しみながら

SDGsランドの海や川に見立てたコーナーで「ごみを拾う子どもたち」

昨年春、職員たちがまとめたSDGsの取り組み、いずれも安城市の安城北部こども園で



水道の蛇口を閉め、切り抜いた紙きれがまだ使えるか考えるなどのゲームに挑戦。バツ夕に変身して、ごみや農薬で汚れた草などの障害がある原っぱを冒険するなどして理解を深めた。

お楽しみ会に参加した年長の子どもたちは「SDGsランド」を遊戯室に作った。ごみが散乱した川や海を紙くずや空のペットボトルで再現、つけっ放しの懐中電灯で使わない電気を消す大切さを伝える。

年少組は「ごみがいっぱい、お魚さんたちがかわいそう」とランドで楽しみながら環境問題に触れる。年長組の山田陸人ちゃん（六）と内藤涼佳ちゃん（六）は「くちやくちの紙も、きれいにのぼすとまた使えるよ」「おうちでも電気を消そうね」と教えた。

「SDGsの取り組みは工夫次第で、小さな子どもたちとも一緒に進められると分かったのは大きな成果」と佐藤園長。「今は分からないことも、頭や心に残った何かが無来につながる」と信じている」と話した。（四方さつき）